

# 八郎湖におけるアオコの発生状況等について

八郎湖環境対策室

## 1 発生状況等

- 今年度は、昨年度より1か月早い6月7日に大潟橋等でアオコの初期発生を確認した。
- 6月下旬以降は、各地でアオコの発生が確認されているものの、レベル5以上のアオコが広範囲かつ継続的に発生する状況（異常発生）には至っていない。

## 2 被害防止に向けた取組状況

### (1) シルトフェンスの設置状況

アオコの遡上が懸念される流入河川に遡上を防止するためのシルトフェンスを早期に設置している。

市町名	河川名	設置月日
三種町	鹿渡川、糸流川	6月15日
八郎潟町	馬場目川	7月8日
井川町	井川	6月17日
潟上市	馬踏川、豊川、妹川、飯塚川	6月19日～6月24日

### (2) 破壊式アオコ処理装置及び高濃度酸素水供給装置の設置

悪臭被害が発生しやすい馬踏川及び豊川では、以下の装置を設置している。

装置の種類	河川名	市名	運転期間
破壊式アオコ処理装置	馬踏川	潟上市	7月15日～9月30日(予定)
高濃度酸素水供給装置	豊川	〃	5月22日～10月30日(予定)

### (3) 監視体制と市町村等との連携

- 対策室では6月から随時、職員がアオコの発生状況を調査しているほか、7月からは湖岸4か所での定期的な調査を八郎湖増殖漁業協同組合に委託している。
- さらに、馬場目川河口など湖岸5か所に監視カメラを設置し、常時監視を行っている。
- 住民に対してはアオコの発生状況を県のホームページで公表しているほか、流域の市町村等と情報を共有し、連携して悪臭被害等の防止に努めている。

## 【参考】

### 1 今年度の気象データ

4～8月は、平年と比較し気温が高く、降水量が少ない。特に、7月、8月の降水量は、平年を大きく下回っている。

[ 単位：mm、℃、時間 ]

	H 2 7			H 2 6			平年値		
	降水量	平均気温	日照時間	降水量	平均気温	日照時間	降水量	平均気温	日照時間
4月	86.5	<u>10.1</u>	<u>190.7</u>	<u>21.5</u>	8.6	<u>254.5</u>	81.5	8.6	174.0
5月	<u>53.5</u>	<u>15.8</u>	<u>240.4</u>	98.0	<u>15.0</u>	173.8	93.5	13.7	192.5
6月	<u>78.5</u>	<u>19.0</u>	<u>194.7</u>	116.5	<u>20.6</u>	<u>188.2</u>	88.3	18.2	172.5
7月	<u>53.5</u>	<u>23.2</u>	<u>176.7</u>	187.5	<u>23.5</u>	<u>198.2</u>	151.9	22.0	161.5
8月	<u>76.0</u>	<u>24.0</u>	169.2	265.0	<u>23.9</u>	112.6	152.6	23.8	193.1

注) ・データは気象庁秋田地方気象台「大瀧」観測所のもの。

・平年値は気象庁ホームページ掲載のもの。(1981年～2010年の30年間の平均値)

・下線は、降水量が平年値未満の値、平均気温及び日照時間が平年値を上回る値。

### 2 アオコの発生レベル

アオコの発生レベルは、現場でアオコを目視し、国立環境研究所が提唱する「見た目アオコ指標」に照らしてレベルを判定している。

レベル0	アオコの発生は認められない。
レベル1	アオコの発生は肉眼で確認できない。
レベル2	うっすらと筋状にアオコが発生。
レベル3	水の表面全体に広がり、所々パッチ状。
レベル4	膜状にアオコが湖面を覆う。
レベル5	厚くマット状にアオコが湖面を覆う。
レベル6	スカム状に湖面を覆い、腐敗臭がする。

# H27年度アオコ対策の実施状況

- 破壊式アオコ処理装置
- 高濃度酸素水供給装置
- アオコ遡上防止フェンス
- 監視カメラ
- ◆ アオコ発生状況調査地点
- 漁協による調査地点

